

山寺ふるさと便り =第22号=

宝珠のしずく

題字 後藤仁田(性相院)

発行所 やまでら館

〒999-3301 山形市山寺517-1
TEL 023-695-2001 FAX 023-695-2164

発行者 山寺地区振興会
編集 宝珠のしずく編集委員会



「山寺行啓」 一一〇周年

明治41年9月18日、東宮殿下（後の大正天皇）が初めて眺められた立石寺全景



「野立ちの碑」

（現在の観光協会に相当する組織）が結成され、霊場山寺に加えて景勝地山寺の紹介を展開するのである。

▼今から110年前、明治41年（1908年）、山形市で歴史的なイベント「山寺行啓」が行なわれた。その折、山寺で当時の東村山郡（現在の山形市、天童市、中山町、山辺町）の支援のもと、東宮殿下（後の大正天皇）が山寺にも行啓なされた▼山寺が、当時、「青の洞門」で有名な「耶馬溪」（大分県）に匹敵する「景勝の地」として全国で紹介され、「観光地山寺」がスタートする歴史的な年となった▼記録『山寺行啓記事』（東村山郡役所発行）に、「山寺から四方に通じる道路は年々荒廃し、やがて火の消えたような辺鄙な田舎寺のある村に成らんとしておった」と記されている。しかし、殿下行啓後の報告書には「山寺が見事に復活した」と記されている▼上の写真は、東宮殿下が現在の山寺郵便局前に立つ「野立ちの碑」（左）から初めて眺望なされた「立石寺境内全景」である▼当日、二時間余の境内を巡啓、下山折観明院前で「もう一度来よう」と、案内人の馬淵県知事につぶやかれたという。関係者は感涙したと伝わる▼翌日から、関係者が予想もしなかつたほど、県内外からの多くの参詣者で山寺が賑わった。山形く山寺、天童く山寺の道路は参詣者での蟻の行列。往来は人力車・自転車等で混雑を極め、昼食を摂る茶店に行列が出来た▼行啓後まもなく、県内外の篤志家から会費を募り、山寺に「保りゆう会」（現在の観光協会に相当する組織）が結成され、霊場山寺に加えて景勝地山寺の紹介を展開するのである。

山寺行啓は、「霊場・景勝の山寺」と

全国で紹介する大イベントだった

※山寺は、殿下の行啓をなぜ懇請したのか

当時、山寺村は、立石寺の寺領没収、二口街道交易量の激減で経済危機に陥っていた。山寺の復活を願い、村挙げて東宮殿下（後の大正天皇）の山寺行啓を懇請した。

※山寺は、巡啓の準備をどのように進めたか。

明治41年7月23日に山寺行啓内示があり、同8月14日正式決定。この日から30余日間、当時の東村山郡内各村々の協力で全ての準備を成し遂げ9月18日に備えた★殿下は人力車で行啓なされる。道路・橋梁の走行時、ガタゴト揺れない改修が求められた。改修に当たって、山寺沿線の鈴川、楯山、高瀬、山寺（荒谷含む）各村から一日500人ずつの人足を動員、道路の石抜き、ざり・砂敷き等を20日間余で完了させねばならなかった。さらに、沿道周辺での奉送迎の保安、整美、記念殿、休憩所等の建

設、馬見ヶ崎橋から山寺間沿道での奉迎送者の配置等々の難題を一意専



心で成し遂げた★建築資材は、東村山郡内の資産家より買上げてまかない、滞りなく竣工させた★立

石寺境内の石段は、少しの欠けた箇所をも見逃さず徹夜で改修。山寺村の石工の技量の程を示す出来栄となった。★新聞、雑誌記者への立石寺境内案内、山寺界隈の情報、資料提供は、伊澤栄次氏が詳細に行った。

※明治41年9月18日、当日

★秋晴れの好天に恵まれ、関係者一同安堵。雨天なれば、山寺行啓は中止とすることになっていた★山形から山寺まで奉送迎の人垣ができ、山寺村民は地藏堂前に国旗を交叉した

緑門を造り、その場に整列、奉送迎申し上げた★現在の「野立ちの碑」

近くの川岸に生簀を造り、高瀬東山の釣師齋藤五郎七氏の釣った岩魚を台覧頂いた。当日、岩魚を山形の御宿舎にお届けした★豊田村「しし踊り」を台覧頂くことに異論が出たが、殿下はお気に召され、写真を差出すようにと申された★「性相院、立石寺」を事務所とし、電話を敷設、僅かの瑕疵もでないよう配慮した★立

石寺境内巡啓の御案内は、馬淵県知事が務めた。報道関係者への案内は、山上の詰所を観明院に、山下は中嶋屋に置き、伊澤栄次氏が担当。★記事の伝送は、臨時郵便扱い所を開設し記事の伝送に最大の便宜を図った。こうして、山寺が全国で紹介された。★山上の四寺院の屋根の葺き替え、畳替え、襖を張替え、生花、屏風、床掛けで飾り、薄縁を敷き、室内へは靴のままの昇降とし、供奉員の休憩所に充てた★高瀬大森物見塚休憩所で、供奉者へ茶うけに出した

枝豆が「こんなにおいしいものを初めて食べた」と絶賛された★こうして「おもてなし」の数々が、殿下はじめ、供奉員の御意にかなない、下山の折の「もう一度来よう」との御言葉となった。御一行は御機嫌麗しく山形へ御還啓★行啓は、辺鄙な寒村となろうとしていた山寺村を、一日にして、「霊場、景勝の山寺」として全国に知らしめた。山寺行啓は予期以上の成果を挙げ、万事滞りなく終えることができ、観光山寺のスタートとなった。

※行啓後の山寺

★山形山寺間の道路が県道に昇格、その整備は飛躍的に進んだ★上荒谷沿道に桜並木が記念植樹された。現在、その並木桜は、終戦時、松根油造りの燃料として伐採、今、一本だけが残っている★大正期に「山寺ホテル」を建設。さらに御用邸の建設も話題になった★おかげで、昭和7年、山寺は名勝、史跡に指定された。



★昭和12年11月10日、仙山線全線開通。今年、開通80周年。観光地の要である交通アクセスが整うこととなった。

※山寺行啓後、記念事業を継続

行啓後、東村山郡史蹟保存会を組織し、9月18日前後に、昭和30年(山形市合併前年)まで行啓記念事業を継続した。

★行啓記念碑の建立

- * 「御野立ちの碑」(立谷川河畔)
- * 「大正天皇在東宮行啓記念碑」(日枝神社境内)
- * 東宮駐駕記念碑(記念殿庭園内)

★山寺巡啓の関係資料の多くを伊澤三右衛門栄次氏が保存しておられる。

- * 山寺行啓記事(東村山郡役所)
- * 山寺行啓記(東村山史蹟保存会)
- * 行啓記念帖(山寺尋常小学校)
- * 当時の新聞記事
- * 山寺保りゆう會設立主意及会則
- * 保りゆう會発行「写真絵葉書等」
- * 山寺行在所に関する調査報告書

★多くの方々から資料に関するお話を聞き取り感謝申し上げます。

★山寺芭蕉記念館で山寺行啓展
★必見すべき重要な資料を伊澤家からお借りし実施でき、多くの方々から閲覧頂けた。

山寺行啓展 企画展 山寺行啓展 山寺芭蕉記念館 9月7日(木)~10月3日(火)

山寺行啓展 山寺芭蕉記念館 9月7日(木)~10月3日(火)

山寺行啓展 山寺芭蕉記念館 9月7日(木)~10月3日(火)

山寺行啓記念館 山形市有形文化財指定記念

山寺を観光地「山寺」に押し上げた 東宮嘉に殿下「山寺行啓」の全貌を探る

山寺郷土研究会 新聞孝夫

やまでら館に所蔵されている。

「山寺行啓資料集」を新聞孝夫氏が上梓

山寺の文化財 高橋源吉「本合海」 修復、展示が期待される

行啓後、賑わいを取り戻した山寺が明治44年春の山形大火で参拝客の急減少に見舞われた。

行啓実現の先達・伊澤栄次氏は、山寺振興に追加的な手立てを打つ必要に迫られた。来形していた高橋源吉は大火に見舞われ困窮。伊澤氏と源吉両者の思いが一致、根本中堂を会場に「山寺油絵展覧会」(明治44年10月20日~11月5日、作品50点余展示)が実施された。



「最上川」(写真)は「旧山寺ホテル」

二階大広間に、誰の作品かも知げられず粗末に掲げられてきた。

平成23年、修復研究家大場詩野子氏(現在、神奈川県在住)が源吉の作品と確認。旧山寺ホテルを管理する「山形歴史たても」研究会が、修復募金活動を昨年10月末まで行った。修復後は、装いを新たに展示された。高橋源吉のお目見えが期待される。高橋源吉の父は、代表作『鮭』、『花魁』で有名な洋画家高橋由一。

未来の山寺 わたしたちが思い描く

山寺中三年生が、九年間、山寺小学校で学んだ「山寺の歴史・文化」をふまえ、「わたしたちが思い描く未来の山寺」を、平成29年度文化祭で発表した。その一部を紹介する。

☆グローバル化が一段と進む21世紀、山寺の素晴らしい「歴史・文化」をより深く理解してもらうため、インスタ映えする映像を考案し「YAMADERA」を世界に向けてPRする。英会話による外国人への観光ガイドにも、さらに磨きをかける。

☆二口峠が年間通行でき、冬も観光客が大勢くる山寺、修学旅行が全国から来る山寺をめざし、「山寺に来てよかった」といわれる町づくりを大切に、山寺の少子高齢化をも解決したい。

☆山寺で採れる食材を使つての料理を創作、提供する。山寺の竹・木材を使つての和風への外装リメイクを勧める。

大人も、中学生の思いに込める「元気な山寺のまちづくり」を熟考したいものと痛感させられる発表だった。

山寺小中学生が考えた 山寺の「ゆるキャラ」

サルらんぼ
原案 遠藤 伊織 (中3) <川原町>
デザイン 中嶋 希美 (高1) <地藏堂>



円にゃんさん
原案 朝妻 来望 (小6) <宮崎>
デザイン 中嶋 希美 (高1) <地藏堂>



要望活動と成果

- ・ 市道千手院線拡幅整備は、平成29年度道路詳細設計・用地測量、平成30年度用地買収、買収後着工する見込みとなった。
- ・ 県道山形山寺線歩道拡幅(宮崎地内)は、設計変更により、平成29年度用地測量、平成30年度用地買収、買収後着工する見込みとなった。



・ **環境対策**では、去所子山一帯の悪臭について、事業者が子豚飼育用にコンテナ式豚舎を導入するなどの対策を行ったが悪臭が改善されない状況にあり、市は事業者に消臭剤の使用を要請するなど根気強い対応をしていくことになった。



南院の立谷川河川公園に公園利用者や観光客に喜んでいただくため、山形市の「いきいき地域づくり支援事業」を活用し平成29年度は公園西側緑地帯に樹高3.5mほどのしだれ桜3本を植樹した。さらに平成30年度は中嶋線側の公園整備に合わせ植樹することが計画されている。

今年度も関係行政機関に積極的に要望活動を行い一定の成果を得ることができた。

- ・ **道路関係**では、市道中嶋線が新設・改修され平成29年10月に全線完成した。

- ・ **有害鳥獣被害対策**では、今年、山寺地区内は山形市が組織強化した猟友会中核の「鳥獣被害対策実施隊」が駆除、追い払い等の活動に手を尽くしてきた。

山寺地区内でのサル・イノシシ等の闊歩する姿、田畑・作物被害、日常生活への不安の拡大は目に余る酷さに達し、山寺地内の営農意欲を大

元気な山寺 住みやすい山寺をめざして

今味わう、先哲の言葉

「憶和敬」

立石寺住職 清原 正田

「和敬」とは、「心を穏やかに、つつしみ深く保ち、相手を敬う」という意味です。自分中心にばかり考えていると、どうしても心が波立って来て、周りのアラばかり目に付くようになります。そしてそれが、自分の言葉や行動に表れるようになります。それでは、周りの人から嫌がられ、楽しい毎日になりません。自分の心を穏やかに、相手を思いやる気持ちを保つようにしましょう!!

「中嶋道路が完成」



三代夫婦を先頭に渡り初め



佐藤市長を迎えてのテープカット



ガード下の二車線道路



宝珠山を背景に仙山線が走る

山寺地区が長い間要望していた、南院地内の市道「中嶋道路」の改良工事が地権者の協力・関係各位の協力を得て立派に完成した。中嶋橋は3月に佐藤市長を迎えて開通式を行い、JRガード下の二車線道路も10月に完成し全線開通となった。これにより道路の安全と利便性が良くなり、山寺の観光振興にも寄与することが大いに期待される。

「しだれ桜」植樹

南院の立谷川河川公園に公園利用者や観光客に喜んでいただくため、山形市の「いきいき地域づくり支援事業」を活用し平成29年度は公園西側

山寺の未来へ ～山寺小中学校～

つなぐ子どもたちの活動

今年度の山寺小中学校文化祭は、併設校30周年記念として、昨年度から準備し、開催された。山寺小中学校の文化祭が新たな伝統となるように願い、後藤巧真(中3)君の提案をもとに、「**広交**」新しい伝統の幕開け(広交とは、児童・生徒、保護者、地区の方々の三者が広く交わり、お互いに協力し合う)とテーマを設定し、

☆山寺物語のシナリオに、警司警三郎兄弟説を取り入れる。
☆各自が調べ学習を徹底し発表する

「郷土を愛し、社会に役に立つ人になる。」をめざし、児童・生徒各自が郷土山寺について知りたいこと、興味のあることについて、調べ学習を積極的に行なう。地域の方々へのインタビュー、インターネットでの調べ学習、昔の資料の読み調べ学習等を納得できるまで進め、まとめ、発表する。

ことに、全児童・生徒が取組み「総合学習発表」に臨んだ。

当日の本番発表で、児童・生徒はクイズ形式を取り入れるなどの工夫を凝らし、自信たっぷり、保護者も知らない事柄を発表し合った。

午後は、保護者も、「山寺を語る」をテーマにパネルディスカッションを行い研修会を開催。山寺について学習し、理解を深め合った。



おめでとう『山寺物語』

第31回文化財愛護

川崎浩良 賞受賞!!

この度、約50年に亘り演じられてきている山寺小学校の全校児童劇『山寺物語』が川崎浩良賞受賞という栄誉に輝いた。これまでも当誌に度々掲載してきたが、その継続発表の貴重な文化活動が、今日の山寺小中学校の伝統であるということが更に証明された。

この受賞は、現在の児童生徒のみならず、卒業生や山寺地区民、指導に携わってこられた教職員の方々にとつてもたいへん名誉なことである。今後、開山伝承を体で学び続けよう!



山寺からはじまった 除雪ボランティア



編集後記

宝珠のしづく22号をお届け致します。★「宝珠のしづく」は、「先達の山寺づくり」に学ぶ(過去)、毎年、どんな山寺づくりに取り組んだのか(現在)、次世代を担う子ども達はどう育っているか(未来)の視点を考慮し編集しております★ちなみに各号が揃いますと、多彩な情報の「山寺事典」として活用できそうです。試してみてください。

編集委員

- 新関 孝夫
- 笹原 永吉
- 石川 進一
- 遠藤 まき子
- 布施 晶嗣
- 後藤 久
- 佐藤 正紀